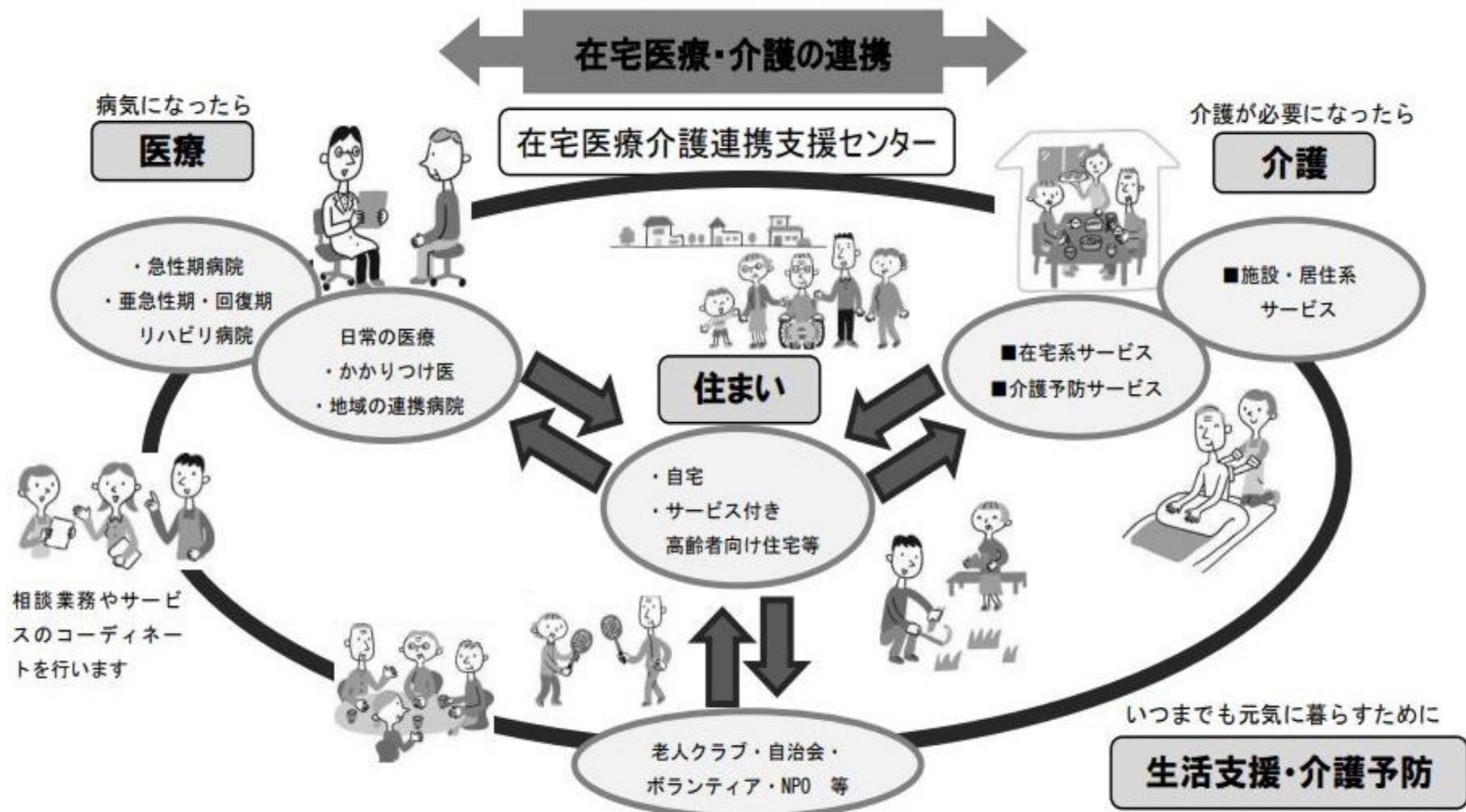


# 資料 3

## 実施事業の状況について

# 基本理念

「高齢者が生きがいを持って 安心して  
自分らしく生活できるまちづくり」



# 基本目標

- ①医療や介護が必要になってしまっても、可能な限り在宅で生活できる体制づくり
- ②支援を要する高齢者を支える体制づくり
- ③認知症の人が自分らしく生活できる地域づくり
- ④地域づくりと連携した介護予防・健康づくりの推進

# まんでネット

指標：まんでネットの部屋の開設数 285部屋



	R4		R5		R6	
	新規	延べ	新規	延べ	新規	延べ
ID登録者数	55	706	18	724	57	781
部屋の開設数	9	268	2	270	7	277

まんでネットの部屋は、令和6年度末時点で延べ277部屋が開設され、目標値285部屋には至っていませんが、前年より増加しています。ID登録者数も781件と増加しており、ネット上での交流や情報共有の場として定着しつつあります。

今後は、利用促進や新規開設の支援を強化し、目標達成に向けた取組を継続します。

# 多職種連携研修会

指標：多職種連携研修会 8回



	R4		R5		R6	
	回数	延べ	回数	延べ	回数	延べ
多職種連携研修会	7	412	6	407	6	509

多職種連携研修会は、目標の8回には達しませんでしたが、参加者数は前年より増加し、1回あたりの参加者数も増えています。

今年度は、保健所との連携や、オンラインでの受講を可能とする取組を実施し、参加しやすい環境づくりを進めました。今後は、開催回数の確保とオンライン活用のさらなる充実を図り、目標達成を目指します。

# 緩和基準型の訪問サービス (訪問型サービスA) 利用者

指標：訪問サービス利用者 20人



	R4		R5		R6	
	実人数	延べ	実人数	延べ	実人数	延べ
訪問サービス利用者	11	579	12	787	10	633

※訪問型サービスAとは、要支援1、2の人及び事業対象者（基本チェックリストを受けて生活機能の低下がみられた人）を利用対象者とし、シルバー人材センター等の登録会員（専門職以外）が訪問して、生活支援（調理・掃除・洗濯等）を行う事業のことです。

訪問サービス利用者数は過去3年間で横ばいとなっており、認定者数の増加に対して利用が伸び悩んでいます。主な要因として、対象者が要支援1・2に限定されていること、受託事業者が1箇所のみであり、要介護状態へ移行した際に同事業者のサービスを継続できないことが挙げられます。また、他の代替サービスが存在することも利用抑制の一因と考えられます。今後は事業者の拡充や継続性の確保、サービスの周知強化が課題です。

# 生活支援体制整備事業の推進

指標：生活支援コーディネーターの配置	14 コミュニティ
協議体の設置	14 コミュニティ
助け合い事業実施	8 コミュニティ

	R4	R5	R6
生活支援コーディネーターの配置	9	16	17
協議体の設置	12	11	17
助け合い事業実施	7	7	7

社会福祉協議会に委託して実施し、R7年度に実施状況の整理を行いました。生活圏域毎の協議体については、全17コミュニティに設置し、話し合いを行っています。本事業は助け合いや居場所などが地域にできることを目標としており、今後も話し合いを続けていきます。

# 地域ケア会議の推進

指標：地域ケア個別会議 15回  
地域ケア推進会議 1回

	R4	R5	R6
地域ケア個別会議 (困難事例)	8	6	4
地域ケア個別会議 (自立支援型地域ケア個別会議)	6 (11件)	6 (12件)	6 (11件)
地域ケア推進会議	1	1	1

自立支援型地域ケア個別会議は計画的に安定して開催しており、継続的な取り組みができます。困難事例については会議回数が減少していますが、随時関係機関との連携により対応を進めています。

地域ケア推進会議は継続開催していますが、今後は個別会議で抽出した課題を政策形成へ確実に反映する仕組みを強化する必要があります。

# 高齢者の移動支援

指標：高齢者の移動手段確保事業の実施 8 コミュニティ



	R4	R5	R6
高齢者の移動手段確保事業の実施	7	7	7
利用者数			

実施しているコミュニティ：城北・城坤・川西・垂水・岡田・飯山南・飯山北

令和3年から本格実施を開始し、現在7か所のコミュニティで事業を継続しています。利用者は年々増加していますが、運転ボランティアの担い手不足が課題となっています。今後は事業のPRを強化し、幅広い年齢層から運転ボランティアを確保していく予定です。

# 認知症サポーター養成講座

指標：キッズサポーター養成講座	16回
ジュニアサポーター養成講座	6回
認知症サポーター数（累計）	20,500人



	R4		R5		R6	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
キッズサポーター（小学生）	15	1,008	16	1,121	15	970
ジュニアサポーター（中学生）	4	817	6	969	4	877
一般（高校生～）	9	265	12	353	9	245
合計	28	2,090	34	2,443	28	2,092
サポーター累計	17,544		19,987		22,079	

令和6年度は、校舎工事等の影響により一部の学校で講座を実施できませんでしたが、令和7年度は本島・広島を除くすべての小中学校で講座を実施できるよう準備を整え、現在順次実施しています。

# 認知症初期集中支援チーム活動

指標：初期集中支援チーム対応件数 45件



	R4	R5	R6
対象者	37	38	34
平均年齢	80.81	79.18	82.06
家庭訪問	177	129	97
1事例平均訪問回数	4.78	3.39	2.85
電話対応数	861	779	419
サポート医同伴訪問数	8	10	13
平均初動日数	39.4	16.7	14.7
チーム員会議数	22	29	20

## 【基本目標3】認知症の人が自分らしく生活できる地域づくり

認知症初期集中支援チーム活動状況	R4	R5	R6
当該年度中に引継ぎ（支援終了）が行われた者	25	25	23
介入時に医療・介護サービスの両方に繋がっていなかった者	21	19	17
介入時に医療サービスに繋がっていなかった者	0	0	1
介入時に介護サービスに繋がっていなかった者	4	4	4
介入時に医療・介護サービスの両方に繋がっていた者	0	2	1
医療・介護サービスの両方に繋いだ者	7	11	8
医療サービスに繋いだ者（両方に繋いだ者除く）	2	6	4
介護サービスに繋いだ者（両方に繋いだ者を除く）	6	3	3
医療・介護サービスのいずれにも繋がらなかった者	10	5	8

令和6年度は、対象者数は34人と前年並みであったものの、家庭訪問や電話対応などの活動量は減少しました。一方で、初動日数の短縮やサポート医同行訪問の増加など、初動対応や医療連携の質は向上しています。しかし、医療・介護サービスの両方に繋がった割合は減少し、どちらにも繋がらなかったケースが増加するなど、連携面での課題が明らかになりました。対象者の高齢化も進んでおり、今後は**支援体制の強化と、連携率向上に向けた仕組みづくり**が必要です。

# 認知症カフェ・介護支援講座

指標：認知症カフェ開催 16か所  
介護支援講座 6回



	R4	R5	R6
認知症カフェ開催場所	14	15	17
認知症カフェ開催回数	137	169	188
認知症カフェ参加者	1,385	2,054	1,858
介護支援講座開催回数	6	6	5
介護支援講座参加者数	80	70	59

認知症カフェは、開催場所・回数ともに増加し、地域での取り組みが広がっています。

令和7年度はコミュニティ主体の認知症カフェが立ち上がっています。

一方で、参加者数は前年より減少しており、参加促進や新たな参加層への働きかけが課題です。介護支援講座については、開催回数・参加者数ともに減少傾向にあり、介護者への情報提供や参加しやすい環境づくりが求められます。

# 権利擁護の推進

指標：受任調整件数	15件
市民後見人候補者数	33人
市民後見人	6人
日常生活自立支援事業利用者	62人

市民後見候補者の高年齢化などの理由で、受任候補者の数が減少しています。そのため、R7年度に養成研修を実施予定です。受任者候補者の増加を目指します。

	R4	R5	R6
受任調整件数	11	7	9
市民後見人候補者数	28	23	22
市民後見人受任者数	4	3	3
日常生活自立支援事業利用者	55	59	66

# 高齢者虐待の防止

指標：虐待防止研修会 3回



	R4	R5	R6
虐待防止研修会	3	3	3
対応件数	R4	R5	R6
件数	117	258	267
実人数	24	31	32
対応回数	4.9	8.3	8.3

# 一般介護予防事業



指標：フレイル予防教室開催回数 350回

※指標で使用している『フレイル予防教室』という言葉は、市が主催するすべての体操教室を含む総称として用いています。

	R4		R5		R6	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
フレイル予防教室 (からだ楽々教室)	70	975	43	979	44	1,009
ころばんぞ～教室	70	1,721	43	1,751	45	2,059
介護予防のための体操教室	247	3,137	251	3,535	256	3,939
合計	387	5,833	337	6,265	345	7,007

介護予防体操教室は、参加者数が増加しており、地域での需要の高さがうかがえます。しかし、事業の効果や継続性を把握するためには、参加者の属性や継続率、行動変容の有無など、質的な評価が必要です。

今後は、アンケートや簡易体力測定を取り入れ、事業内容の改善や効果検証につなげる取り組みを検討していきます。

# 住民主体の通いの場の充実



指標：元気いっぱい！長生き体操実施場所 71か所

	R4		R5		R6	
	場所数	参加人数 (延)	場所数	参加人数 (延)	場所数	参加人数 (延)
元気いっぱい！ 長生き体操	48	594	49	633	50	672

住民運営による通いの場については、計画上は年々増加を目指しているものの、現状では新規立ち上げが難しく、現状維持が精いっぱいの状況です。

主な要因として、運営者の高齢化や後継者不足が挙げられ、地域での担い手確保が大きな課題となっています。

今後は、既存の通いの場の活動継続を支援し、持続可能な形での展開を図っていきます。

令和6年度新規事業

# 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

## 個別的支援（ハイリスクアプローチ）

取組区分		支援実人数	支援延人数
重症化予防	糖尿病性腎症	3	10
	高血圧	53	74

## 通いの場等への関与（ポピュレーションアプローチ）

取組区分	通いの場数	通いの場数 (回数)	参加者数 (延人数)
健康教育 健康課題	4か所	19	260
フレイル 状態把握	4か所	12	161

高齢者の課題に対する支援を通じて、重症化予防やフレイル予防に関する理解が向上し、医療受診・治療の継続、生活習慣の改善といった行動変容が見られました。